

## 製品安全データシート

作成日 2014年7月1日

改訂日 2024年12月12日

### 1. 化学品及び会社情報

製品名 エチル=3-エトキシプロパノアート (Ethyl 3-ethoxypropanoate)

供給者の会社名称 アーク株式会社

住所 大阪市中央区安土町 3-5-13 本町ガーデンシティテラス 3階

電話番号 06-6563-7710

FAX 番号 06-6563-7720

推奨用途及び使用上の制限 溶媒、塗料、コーティング剤、ラッカー、ワニス

### 2. 危険有害性の要約

GHS 分類 JIS Z 7252、7253:2019 使用

物理化学的危険性 引火性液体 区分 3

健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 3(麻酔作用)

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 警告

危険有害性情報 引火性液体及び蒸気

眼刺激

眠気又はめまいのおそれ

注意書き

[安全対策] 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

取扱後は手などをよく洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

[応急措置] 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚（又は髪）に付着した場合、汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。

[保管] 換気のよい場所で保管すること。

涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

[廃棄] 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物の区別 化学物質

化学名又は一般名 エチル=3-エトキシプロパノアート

別名 3-エトキシプロピオン酸エチル、エチル 3-エトキシプロピオ ナート、  
3-エトキシプロパン酸エチル、4-オキサヘキサン酸 エチル

化学式  $C_7H_{14}O_3$

濃度又は濃度範囲  $\geq 99.5\%$

CAS 番号 763-69-9

官報公示整理番号 化審法：(2)-1350、(2)-1379、 安衛法：2-(6)-147

### 4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。  
応急措置をする者の保護 救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤 粉末、泡、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤 棒状放水

特有の危険有害性 燃焼バスには、一酸化炭素などの有害ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。

高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。

特有の消火方法 消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

周辺火災時、移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

消火を行う者の保護 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 個人用保護具を着用する。

漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項 製品が排水路に排出されないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ  
取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。

大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 取扱い場所の近くに、洗顔及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱い注意事項 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざける。-禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

取扱後は手などをよく洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

火気厳禁

衛生対策 取扱い後は手などをよく洗うこと。

#### 保管

安全な保管条件 換気の良い場所で保管すること。

涼しいところに置くこと。

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

火気厳禁

安全な容器包装材料 法令の定めるところに従う。

### 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定

許容濃度 日本産衛学会(2010年版) 未設定

ACGIH(2011年版) 未設定

設備対策 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保護具 呼吸用保護具 防塵マスク、簡易防塵マスク等。

手の保護具 保護手袋。

眼、顔面の保護具 保護眼鏡。状況に応じ保護面。

皮膚及び身体の保護具 保護衣。状況に応じ、保護長靴。

### 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

形状 液体

色 無色

臭い データなし  
融点/凝固点  $-50^{\circ}\text{C}$   
沸点又は初留点及び沸騰範囲  $165^{\circ}\text{C}$   
引火点  $59^{\circ}\text{C}$   
自然発火点  $377^{\circ}\text{C}$   
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界 データなし  
pH データなし  
動粘性率 情報なし  $16.4\text{mPa}\cdot\text{s}$   $25.8^{\circ}\text{C}$   
蒸気圧  $1.5\text{mmHg}$  ( $25^{\circ}\text{C}$ )  
蒸気密度 5.03  
比重  $0/95$  ( $25/4^{\circ}\text{C}$ )  
溶解度 [水]  $55500\text{mg/L}$  ( $25^{\circ}\text{C}$ )  
オクタノール/水分配係数 1.35 (IUCLID (2000))  
分解温度 データなし  
粘度(粘性率)  $1.0\text{mPa}\cdot\text{s}$

#### 10. 安定性及び反応性

反応性 情報なし  
化学的安定性 適切な条件下においては安定。  
危険有害反応可能性 特別な反応性は報告されていない。  
避けるべき条件 情報なし  
混触危険物質 酸化剤  
危険有害な分解生成物 二酸化炭素, 一酸化炭素, 窒素酸化物

#### 11. 有害性情報

急性毒性 orl-rat LD50:  $5000\text{ mg/kg}$   
skn-rbt LD50:  $10\text{ mL/kg}$   
皮膚腐食性/刺激性 skn-rbt:  $500\text{mg}/24\text{H}$  MILD  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 ウサギ3匹を用いた試験で全例に軽度の刺激性 (slight irritation) が観察された。  
なお、この試験で角膜または付属器でのフルオレセイン染色は見られなかった (IUCLID (2000))。GHS 分類: 区分 2B  
呼吸器感作性 情報なし  
生殖細胞変異原性 情報なし  
発がん性 情報なし

生殖毒性 ラットおよびウサギの器官形成期に吸入投与した試験(OECD TG 414;GLP)において、母動物が摂餌量の低下、体重増加抑制などの一般毒性を示した高用量群で、ラットでは軽微な内臓変化や骨変異発生率の僅かな増加に加え、第14肋骨痕跡の増加が見られたが、両動物種とも催奇形性はなく、また、胎仔毒性の証拠も見出されなかった(HPVIS((2010))。しかし、親動物の性機能および生殖能に対する影響については不明のため、データ不足である。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) ラットに5000mg/kgを経口投与後の脱力および運動失調の症状(IUCLID((2000))、ラットに1000ppmを吸入ばく露による嗜眠、耳介および探索反射の低下の症状(IUCLID((2000))との報告がある。なお、いずれの経路とも剖検所見としてばく露に関連する変化は観察されていない。区分3(麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) ラットに9日間の蒸気吸入ばく露による試験で、高濃度群で体重増加抑制、流涙や嗜眠などの症状、血清生化学検査値の変化が観察されたが、ばく露に関連する病理組織学的所見は見出されず、NOAELはガイダンス値範囲の上限(1mg/L/day)を上回る1.49mg/L/day((250ppm)と報告されている(HPVIS((2010))。また、ラットに28日間の経口投与による試験では、唯一の影響として1000mg/kg/dayで血清酵素(ASTおよびSDH)およびクレアチニン濃度の増加が観察された(HPVIS(2010))が、関連する病理組織学的所見は見出されず、1000mg/kg/day(90日換算値:311mg/kg/day)で重大な毒性の発現は認められなかった。しかし、経皮投与の場合ではデータがなく、その影響について不明であるため、分類できないとした。

誤えん有害性 情報なし

## 12. 環境影響情報

生態毒性

魚類 情報なし

甲殻類 情報なし

藻類 情報なし

残留・分解性 情報なし

生体蓄積性(BCF) 情報なし

土壌中の移動性

オクタノール/水分配係数 1.35

土壌吸着係数(Koc) 情報なし

ヘリ定数(PaM 3/mol) 情報なし

オゾン層への有害性 情報なし

### 1 3. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。

地方条例や国内規制に従う。

焼却処理する場合には、可燃性溶剤に溶解または混合した後、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

### 1 4. 輸送上の注意

国連番号 3272

品名 Esters, n. o. s

国連分類 クラス 3(引火性液体)

容器等級 III

輸送の特定の安全対策及び条件 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行い、法令の定めるところに従う。

### 1 5. 適用法令

消防法 第4類第二石油類 危険等級III 非水溶性

安衛法 危険物 四 引火性のもの  
皮膚等障害化学物質等

(R8年4月1日より)名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

船舶安全法 危規則危険物告示 別表第1 引火性液体

航空法 引火性液体

### 1 6. その他の情報

記載内容は現時点で入手出来る資料、情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱い及び本品の適正に関する決定は細心の注意をもって、使用者の責任において行なって下さい。

ここに記載されている情報は新しい危険性や有毒性の知見に基づき改訂されることがあります。